



源平合戦図屏風（部分） 所蔵：兵庫県立歴史博物館

くまがいなおざね 熊谷直実は、沖の船へと馬を泳がせて逃げる平敦盛を見つけた。直実は扇をあけて「敵に背を見せるとは卑怯でござろう。引き返されよ！」と呼び招き、波打ち際まで戻ってきた敦盛を馬から落とし取り押さえた。兜をめくると、この戦いで手傷を負った我が子とも同じ年格好だった。直実はとたんに戦意が失せ、助けたいと思ったが、後ろを振り返ればすぐそこまで味方の軍勢が押し寄せてきていた。逃がすことはできないと悟った直実は、泣く泣く敦盛の首を取ったのだった一。

# 和顔愛語

寺報

令和6年12月号

## いつの世も無常あり…

## 阿弥陀様に救いとっていただく身に

今年も師走を迎えましたが、振り返るといろいろなことがあります。特に印象深かったのが袴田巖さんの無罪判決が確定したニュースです。袴田さんは1966年に起こった事件の容疑者として逮捕され、その後14年間にわたり法廷で争われ、死刑の判決が下ります。しかし、多くの人が取り調べや裁判での事実認定について不自然な点を指摘し、翌年には再審請求が行われます。そして、40年以上の月日を経て今年ついに無罪が確定しました。

900年ほど前の源平合戦に熊谷直実という武士がいました。この合戦において源氏の有利を決めたのが一之谷の戦い（1184年）での勝利です。直実は、このとき16歳で従軍していた平家方の武将である平敦盛を討ち取ります。直実は自分の子供と同じ年の少年を殺すことに、大きなためらいがありました。命がけの合戦で見逃すこともできずに討ち取りました。この出来事が要因の一つとなり、直実は出家し、法然上人の門弟となりました。

法然上人は、人間が不完全であることを前提とし、また末法の世に生きる人々は、それぞれ努力しても悲しい結末を迎えることがあると理解したうえで、念仏の教えを広めました。その教えが、直実をはじめとした多くの人の心に届きました。

南無阿弥陀仏となえれば、私がおのままで仏様に救われていく。いつの世でも浄土宗の教えのおおらかさは、人々を温かく包み込んでくれるのです。

生活の中にある

# 仏教の言葉

⑤

私たちが日常で使う言葉には、仏教に由来する言葉が多くあります。なかには、仏教ではまったく意味が異なるものも。この「コーナー」では、そんな言葉を紹介していきます。

## 行儀

小さい頃「お行儀よくしなさい」といわれ、わけも分からな

いまま食事や挨拶の作法をしていた、という方は多いのではないのでしょうか。行儀は、繰り返していくなかで身につき、それが次第に心持ちにも影響する大事なものです。

この「行儀」、仏教語としては、「仏道の修行に関する規則」の意味。そこから、「仏教儀式」を指すこともあります。

仏教には修行者の守るべき規

則があり、それを守ることが集団にとつての秩序の維持につながるだけでなく、目標とするさとりに至るために必須とされています。

「行儀」が中国から日本に伝わった当初は、仏教用語として使われていましたが、室町時代ごろには、礼儀一般のきまりを指す言葉として人々の間に広まっていったといわれます。

浄土宗の行はお念仏といえます。それには①日常となえるお念仏（尋常行儀）②時と場所を定めてとなえるお念仏（別時行儀）③臨終に際してとなえるお念仏（臨終行儀）の三種行儀が



あります。法然上人はこのなかで日常のお念仏が特に大事だとされました。日々の継続が、心構えや気持ちをお念仏に向かわせ、深めていくからです。

## 娯楽

「娯楽」と聞くと、映画や演劇、趣味などのイメージを持つ方が多いと思います。しかし、仏教語としては、座禅などの修行によって「心の安らかさ、楽しさを得ること」を意味する言葉なのです。

お釈迦様が在世の時代、仏教では歌や踊りなどは遠ざけるべきものとされ、「娯楽」も私達の考える「遊び」の意味合いはありませんでした。しかし、時代を経るなかで「楽しさや安らぎ」の部分だけが注目され、「仕事や勉強などの余暇にする遊びや楽しみ」といった現代の用法になつていったとされます。

ちなみに、仏教に由来する娯楽もいくつかあり、日本の伝統芸能ともいえる「歌舞伎」は、一説には、念仏をとえながら踊る「念仏踊り」に由来するといわれています。

イタリアの芸術家レオナルド・ダ・ヴィンチは「最も高貴な娯楽は理解する喜びである」との言葉を残しています。勉強をしていて、新しい知識を得られるのは、うれしい瞬間。そう考えると勉強も一種の娯楽といえるのかもしれない。

このコーナーも皆様にとつて新しい知識を得る「娯楽」となれば幸いです。

# 伝えたい言葉 (17)

ゆきのうちに

仏のみなをとなふれば

つもれるつみそ

やかてきえぬる

(法然上人の和歌)

〈書き下し〉

雪が降り積もるように悪行を重ねている間でも、南無阿弥陀仏と阿弥陀様の名号をとなえるならば、雪のように積もった罪が、すぐに消えてしまうことでしょう。

〈現代語訳〉

大雪は私達の生活に影響を与えます。雪が降り続けば、やがてあたりは真っ白になっていきます。ただし雪国でもなければ、その雪はいずれ消え去っていく。法然上人もその生涯のなかで雪

を見る機会があったのでしよう。そして詠んだのが冒頭の歌です。

京都の雪は美しかったよう  
で『枕草子』では冬の早朝の趣を描き、雪の降った様子はいうまでもなくよいものだと言われている。法然上人と同時代を生きた鴨長明も雪をしみじみと眺めたようです。そして『方丈記』では「雪が積もっては消えていく様子が、人間の罪障にたとえられる」と述べています。真っ白な雪は降っては積もりますが、積もっては消えてゆくものですが、その白さゆえに泥などの汚れも目立ちます。もしかすると、源平の合戦などで混乱した当時の京都の人々は、そんな雪を眺めながら、人の罪について思いを巡らしていたのかもしれない。

少なくとも法然上人はそうだったのでしょう。空からゆつくりと舞い落ちる雪が少しずつ地面に積もっていく。その様子



は私達が日々の暮らしの中で少しずつ罪を重ねていくようなものです。一方で、雪が消えるように、私達も悪いことばかりではなく、ときに阿弥陀様に手を合わせお念仏をする。そのときには罪が浄められ消え去っていきます。

仏教の基本原則は自業自得であり、悪いことをすれば苦しい結果がやってくるし、善いことをすれば楽しい結果がやってくる。

る。しかし善いことをしたからといって、悪いことが帳消しになるわけではありません。罪が消えることを滅罪といいますが、これは自業自得の原則から外れています。それが可能となるのは、仏様の力が私達に働きかけたときです。そして、南無阿弥陀仏ととなえると私達に仏の力が働きかけてきます。暖かな日差しに照らされ積もった雪が溶けて消え去るように、阿弥陀様の放つ御光が私達の心に届くとき、積もった罪が消え去っていく。これは仏様の力をもって可能になる、実に不思議なできごとです。しかし法然上人はそれを心から信じ、南無阿弥陀仏で罪が消え去っていくことを確信していました。鴨長明も法然上人の歌をきっかけにして、『方丈記』を記したのかもしれない。法然上人の教えをきっかけに、お念仏に励んでいきたいものです。

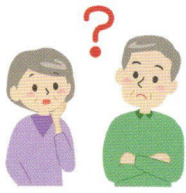
# Q&Aですぐわかる！ なるほど浄土宗

18

身近な仏教の疑問をQ & A  
形式で説明します！

—五重相伝ごじゅうそうでんってどういうものでしょうか？

—五重相伝は五日間にわたって行われる儀式で、檀信徒の皆さんに浄土宗の教えの要点を五つにわけてお伝えするものです。もともとは僧侶のための儀式でしたが、愚底ぐていという僧侶が徳川家康の祖先にあたる松平親忠ちかただに伝えてから、信徒の方々に對しても行われるようになりました。



この儀式では右下の写真にある  
浄衣じょうえという麻  
や木綿で作られ  
た白衣を羽織り  
受者の清浄を保  
ちつつ、浄土宗



五重相伝に羽織る浄衣  
画像提供：京都 千切屋

の教えを学び、阿弥陀様に祈りを捧げます。檀信徒の皆さんにとつては、日常を離れた修行の期間であり、本来は、すべてを終えた方にのみ「誉号よごう」という法号（戒名）が授与されます。誉号とは戒名のなかにある「○誉」という部分で、その人のお念仏の信仰が阿弥陀様の誉ほまれにかなうものである証です。

関西地方では関東よりも一般の寺院で行われている地域もありますが、定期的に開催されることは少ないので、もしも大本山などで開催の知らせがあったらぜひ参加を検討してみてください。まちがいになく信仰が深まっていくはずですよ。

## 令和七年 年回一覽

令和六年	一周忌
令和五年	三回忌
平成三十一年	
(令和元年)	七回忌
平成二十五年	十三回忌
平成二十一年	十七回忌
平成十五年	二十三回忌
平成十一年	二十七回忌
平成五年	三十三回忌
昭和六十四年	
(平成元年)	三十七回忌
昭和五十一年	五十回忌

\* \* \*

年回法要にあたられていらつしやるお檀家様はなるべくお早めにご法事の日程をお知らせください。

ご法事の当日までに、お塔婆をお上げになる方のお名前と、当日いらつしやる人数をご連絡ください。

また、当日は

- ・お写真
- ・お供物（故人様の好物など）
- ・墓地用仏花

をお持ちくださいますようお願い申し上げます。

### 普照山 正定寺

■所在地  
〒111-0036 東京都台東区松が谷2丁目1-2  
■TEL: 03-3841-1853 ■FAX: 03-3841-1777

### 紫金山 静蓮寺

■所在地  
〒110-0004 東京都台東区下谷1丁目12-21  
■TEL: 03-3843-4034 ■FAX: 03-3843-3442

### 母冲山 清見寺

■所在地  
〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地122

### 私たちの宗旨



名称：浄土宗  
宗祖：法然上人（1133-1212）  
開宗：承安5年（1175）  
本尊：阿弥陀如来  
教え：阿弥陀仏の平等のお慈悲を信じ「南無阿弥陀仏」とみ名を称えて、お浄土に生まれることを願う信仰です。